

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 03 01	中期総合計画主要施策番号		2-03,2-07		担当課	部・課	農政部・農業技術課	
事業名		信州ブランド農産物を創る知的財産活性化事業				内線		3065		
						E-mail		nogi@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	開発された品種・技術等を県民共有の知的財産として権利化・保護し、生産振興や産地間競争力の強化をめざした「信州農産物知的財産活性化戦略」の策定等により、信州ブランドを創り・守る。 同時に、これら戦略の先駆けとして、海外に許諾したりんご「シナノゴールド」の契約遵守のための権利保護を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・知的財産保護に関する制度は強化されているが、知的財産に対する農業者、農業関係者の意識は低い。 ・新品種を育成した者が全国平均の2倍であり、新品種を導入して技術革新を図る意欲が高い県民性である。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 今まで、新技術等の知的財産は権利化せず広く普及するものという考えがあり、意識改革が進んでいない。								
		【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・県は知的財産の活用に関して基本方針を定めるとともに農業者、農業関係者への研修会、パンフレット等を利用して啓発を行う必要がある。 ・開発された新品種・技術等の知的財産の権利化、保護を行う必要がある。								
		事業内容 ・基本方針となる「信州農産物知的財産活性化戦略」の策定等により信州ブランドを創り、守る。 ・農業者へ知的財産を啓発するためパンフレットを作成する。 ・りんご「シナノゴールド」の契約遵守のためスイスへ商標出願する。								
	実施期間	H18 ~ H20		根拠法令等	知的財産基本法第6条、長野県食と農業農村振興計画					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	・基本方針の策定や農業者、農業関係者への啓発等により、信州ブランドを創り・守る。 ・開発された新品種・技術等の知的財産の権利化、保護を図る。		・信州農産物知的財産活性化戦略を策定すること。 ・パンフレット等を作成し啓発すること。 ・スイスへ「Shinano Gold」、「Nagano Gold」2商標を出願すること。			・信州農産物知的財産活性化戦略を10月に策定した。 ・果樹の育成者権についてのパンフレットを作成し啓発を実施した。 ・スイスへ「Shinano Gold」、「Nagano Gold」2商標を出願した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	1,400	1,055		国庫・県単 県単			
	決 算 額 (B)		千円	1,261	1,028		実施方法 直接、委託			
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	261	0		歳出節別内訳等			
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.50	0.50		報償費142、旅費226、需用費129、委託料531			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	4,831	4,603	0	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	信州農産物知的財産活性化戦略		件	0	1		知的財産に関する研修会を開催し、啓発を図った。			
	りんご「シナノゴールド」の海外許諾		件	1	0		知的財産権に関する無料相談会を農業関係者、生産者を対象に3回開催した。			
	商標出願		件	0	2					
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明 (終了)				
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・りんご「シナノゴールド」の欧州への商標出願についてはH20年度で終了するが、今後は「信州農産物知的財産活性化戦略」に基づき、県が所有する知的財産権の実施方針を策定し、長野県農産物の知的財産活用を強化するために平成21年度から農業試験場知的財産管理部を設置するなど、試験研究と連携して保護・活用を促進する。							